

平成25年度 決算状況		人口増減率	22年国調 17年国調 増減率	237,506人 241,361人 -1.6%	区分	住民基本台帳人口	うち日本人	産業構造			都道府県名	団体名	市町村類型	-1		
		面積	積密度	431.42km ² 551人	26.1.1	236,274人	234,980人	区分	22年国調	17年国調	41	2015	地方交付税種地	1-5		
歳入の状況 (単位千円・%)																
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	市町村税の状況 (単位千円・%)			指定団体等の指定状況		区分		平成25年度(千円)	平成24年度(千円)			
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	普通税	旧新産	×	歳入総額	90,422,432	88,762,189		
地方税	29,583,862	32.7	28,235,945	56.0	普通税	28,211,365	95.4	502,011	旧新産	×	歳入総額	90,422,432	88,762,189			
地方譲与税	693,236	0.8	693,236	1.4	法定普通税	28,211,365	95.4	502,011	旧工特	×	歳出総額	87,653,172	86,779,030			
利子割交付金	53,394	0.1	53,394	0.1	市町村民税	13,905,240	47.0	502,011	低開発	×	歳入歳出差引	2,769,260	1,983,159			
配当割交付金	94,932	0.1	94,932	0.2	個人均等割	324,124	1.1	-	旧産炭	×	翌年度に繰越すべき財源	822,378	492,502			
株式等譲渡所得割交付金	132,808	0.1	132,808	0.3	所得割	10,514,637	35.5	-	山振	×	実質収支	1,946,882	1,490,657			
地方消費税交付金	2,297,707	2.5	2,297,707	4.6	法人均等割	784,974	2.7	130,497	過疎	×	単年度収支	456,225	-139,848			
ゴルフ場利用税交付金	44,800	0.0	44,800	0.1	法人税割	2,281,505	7.7	371,514	首都	×	積立金	1,058,424	855,741			
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	12,018,196	40.6	-	近畿	×	繰上償還金	55,000	-			
自動車取得税交付金	134,061	0.1	134,061	0.3	うち純固定資産税	11,904,527	40.2	-	中部	×	積立金取崩し額	-	-			
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	501,743	1.7	-	財政健全化等	×	実質単年度収支	1,569,649	715,893			
地方特例交付金	97,975	0.1	97,975	0.2	市町村たばこ税	1,786,186	6.0	-	指数表選定	×	区分		平成25年度(千円)	平成24年度(千円)		
地方交付税	20,127,791	22.3	18,254,282	36.2	鉦産税	-	-	-	財源超過	×	一般職員	1,450	4,703,800	3,244		
普通交付税	18,254,282	20.2	18,254,282	36.2	特別土地保有税	-	-	-	一部事務組合加入の状況	特別職等	うち消防職員	-	-	-		
特別交付税	1,871,588	2.1	-	-	法定外普通税	-	-	-	議員公務災害	×	うち技能労務員	153	539,784	3,528		
震災復興特別交付税	1,921	0.0	-	-	目的税	1,372,497	4.6	-	退職手当	×	教育公務員	15	49,163	3,278		
(一般財源計)	53,260,566	58.9	50,039,140	99.3	法定目的税	1,372,497	4.6	-	事務機共同	×	臨時職員	-	-	-		
交通安全対策特別交付金	80,011	0.1	80,011	0.2	入湯税	24,580	0.1	-	税務事務	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
分担金・負担金	1,396,176	1.5	-	-	事業所税	-	-	-	老人福祉	×	区分		平成25年度(千円)	平成24年度(千円)		
使用料	905,743	1.0	98,341	0.2	都市計画税	1,347,917	4.6	-	伝染病	×	一般職員	1,450	4,703,800	3,244		
手数料	799,382	0.9	-	-	水利地益税等	-	-	-	非常勤公務災害	×	うち消防職員	-	-	-		
国庫支出金	12,539,108	13.9	-	-	法定外目的税	-	-	-	退職手当	×	うち技能労務員	153	539,784	3,528		
国庫提供交付金	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-	事務機共同	×	教育公務員	15	49,163	3,278		
特別区財政交付金	-	-	-	-	合 計	29,583,862	100.0	502,011	老人福祉	×	臨時職員	-	-	-		
都道府県支出金	7,234,899	8.0	-	-	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
財産収入	254,398	0.3	47,909	0.1	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
寄附金	213,582	0.2	-	-	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
繰入金	521,880	0.6	-	-	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
繰越金	1,983,159	2.2	-	-	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
繰上収入	1,823,828	2.0	130,908	0.3	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
地方債	9,409,700	10.4	-	-	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
うち臨時財政対策債	4,420,000	4.9	-	-	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
歳入合計	90,422,432	100.0	50,396,309	100.0	合 計	29,583,862	100.0	502,011	伝染病	×	合計	1,465	4,752,963	3,244		
性質別歳出の状況 (単位千円・%)					目的別歳出の状況 (単位千円・%)											
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率	区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち 普通建設事業費	(A)の 充当一般財源等	基準財政収入額	23,852,878	23,656,742			
人件費	14,077,943	16.1	12,889,858	12,285,727	22.4	議会費	601,154	0.7	2,736	600,219	基準財政需要額	37,442,428	37,707,844			
うち職員給	8,549,440	9.8	7,566,867	-	-	総務費	10,720,143	12.2	1,229,218	8,445,650	標準財政収入額等	30,921,792	30,705,268			
扶助費	20,143,798	23.0	5,942,084	5,878,856	10.7	民生費	30,773,134	35.1	226,128	14,481,215	標準財政規模	53,712,105	53,613,798			
公債費	10,292,955	11.7	9,933,927	9,933,927	18.1	衛生費	7,046,910	8.0	234,352	5,920,557	財政力指数	0.63	0.63			
元金	9,020,788	10.3	8,699,278	8,699,278	15.9	労働費	264,312	0.3	-	6,726	実質収支比率(%)	3.6	2.8			
元利子	1,270,828	1.4	1,233,310	1,233,310	2.2	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	公債費負担比率(%)	16.2	16.5			
一時借入金	1,339	0.0	1,339	1,339	0.0	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	健全化判断比率	-	-			
(義務的経費計)	44,514,696	50.8	28,765,869	28,098,510	51.3	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	実質赤字比率(%)	-	-			
物件費	8,904,662	10.2	7,367,310	6,173,747	11.3	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	連結実質赤字比率(%)	-	-			
維持補修費	1,827,097	2.1	1,578,417	1,578,417	2.9	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	実質公債費比率(%)	5.6	6.5			
補助費等	10,024,279	11.4	9,018,723	6,594,028	12.0	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	将来負担比率(%)	-	-			
うち一部事務組合負担金	2,994,512	3.4	2,926,612	2,832,935	5.2	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	積立金	9,841,505	8,783,081			
繰出金	7,801,944	8.9	6,680,397	5,967,364	10.9	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	財調	6,588,690	5,867,734			
積立金	2,928,769	3.3	2,399,833	-	-	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	減債	11,718,280	10,926,612			
投資・出資金・貸付金	972,215	1.1	45,715	-	-	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	現在高	89,902,696	89,513,784			
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	地方債現在高	89,902,696	89,513,784			
投資的経費	10,679,510	12.2	2,584,304	2,584,304	12.2	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	（支）債務負担行為額	1,350,337	1,452,764			
うち人件費	134,068	0.2	134,068	-	-	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	物件等購入	1,350,337	1,452,764			
普通建設事業費	10,548,044	12.0	2,542,025	2,542,025	12.0	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	保証・補償	6,475,949	6,417,154			
うち補助	3,851,260	4.4	178,047	178,047	4.4	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	その他	1,113,967	530,563			
うち単独	6,343,558	7.2	2,280,452	2,280,452	7.2	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	実質的なもの	-	-			
災害復旧事業費	131,466	0.1	42,279	42,279	0.1	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	収益事業収入	-	-			
失業対策事業費	-	-	-	-	-	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	土地開発基金現在高	3,081,016	3,079,603			
歳出合計	87,653,172	100.0	58,440,568	61,209,828千円	88.3%	農林水産業費	3,889,740	4.4	1,604,217	2,187,351	徴収率(%)	99.4	98.2	99.2	97.7	
					経常収支比率		88.3%		96.1%		現計		99.3	98.4	99.2	98.0
					（減収補填債(特例分)及び臨時財政対策債除く)						市町村民税		99.3	98.4	99.2	98.0
					歳入一般財源等		61,209,828千円				純固定資産税		99.5	97.8	99.2	97.2

(注) 1. 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうち補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうち単独事業費を含む。
2. 東京都特別区における基準財政収入額及び基準財政需要額は、特別区財政調整交付金の算出に要した値であり、財政力指数は、前記の基準財政需要額及び基準財政収入額により算出した。
3. 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
4. 住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載している。